

「意欲的に活動する子どもの育成」

—— 話す力・聞く力を育てる国語の授業づくりを通して ——

I 研究の内容

1. 研究の具体的内容

- (1) 話すこと聞くこと（子どものどうしの関係）について児童の実態を掴む。
- (2) 国語科の「話すこと・聞くこと」についての単元を拾いだし、具体的にどこでどんな力をつけるのかを把握する。
- (3) 「話すこと・聞くこと」について指導の工夫をする。
- (4) 研究授業を通して研究内容を検証する。
- (5) 本年度の研究の成果と課題を明らかにし、まとめる。

2. 研究の方法

- (1) 各担任による児童の実態把握。
- (2) 「話すこと・聞くこと」についての拾いだしをし、どこの単元でどんな力をつけようとし、どんな指導の工夫をし、実際子ども達はどうであったかということを記録していく。
- (3) 低・高のブロックごと指導案を検討し、年間2回の研究授業をする。
- (4) 一人一実践ということで、全員が授業をする。（今年度は1学期や2学期にも入れていく）（国語の単元の洗い出しの中で各自実施時期を検討する）

II 成果と課題

- 今年度は、昨年度の「話すこと聞くこと」の研究成果の上に、授業で子ども達の力を伸ばしていくことを試みた。授業の中で様々に工夫することで、子ども達の話したり聞いたりする力をさらに育てることができた。
- 子ども達一人一人のカルテを作り、それぞれの課題を意識して授業を進めることができた。
- 「話すこと聞くこと」の単元を洗い出すことによって、計画的に授業が進められたり、授業の内容や工夫などを書き込むことで、自分の授業を振り返ったり、他の学年の授業を参考にすることもできた。
- 低学年高学年のブロックに分かれて、集中的に「話すこと聞くこと」の教材研究をし、授業案を作ったことによって、成果や課題をみんなのものにすることができた。
- 低学年は3年生で「道案内をしよう」の授業をした。「話すこと聞くこと」の中で「聞くこと」に重点を置いた研究授業を行った。聞き返す場面を意図的に作り出し、子どもたちが積極的に聞いたり尋ねたりするよう工夫された授業だった。「聞くこと」に

重点を置く授業は、研究授業としては初めての試みだったが、聞くことの大切さと発達段階によっては、聞き直すことの難しさを知ることができた。

○高学年では「工夫して発信しよう」という単元の中で一人一人の考えた企画について話し合いをする授業をした。一つ一つの企画に対してアドバイスをする場面では、教師的確な判断で、緊張している子どもたちからも意見を引き出すことができた。

○講師の先生からは「話すこと聞くこと」についての理論的なお話や、具体的な授業の進め方などを聞くことができた。

○一人一実践ということで全員が授業を公開し、その後率直に感想など言い合うことで力をつけることができた。

1年生：(国語) お店屋さんごっこをしよう

2年生：(国語) あったらいいなこんなもの

4年生：(国語) 点字について発表しよう

6年生：(国語) 平和へのダイヤモンドランキング

教頭先生：(社会) 住みよい暮らしと環境

養護教諭：(保健指導) 友だちの大切さ 教務：(理科) 振り子の振れ方

Ⅲ 成果物

1. 3年生「道案内をしよう」

- ・「聞くこと」に重点を置いた授業の工夫。教師が分かりにくい説明をし、どうしても聞き直さないと分からない状況を作り出した。
- ・子ども達に聞き直させるために、分かりにくい説明文をいくつも考え出した。
- ・道案内用の地図を作った。
- ・「道案内をしよう」ワークシート。授業振り返りカード。

2. 5年生「工夫して発信しよう」

- ・話し合いが活発にできるように、友だちと自分の企画書をくらべてアドバイスをしあう場面を設定した。
- ・「ニュース番組作りの現場から」読み取りワークシート。
- ・「工夫して発信しよう」企画書作りのワークシート。
- ・授業がんばりチェックカード

3. 「話すこと聞くこと」に関する単元表。

単元名、指導内容、実際の授業での工夫と子どもたちの反応の記録を残した。

4. 「話すこと聞くこと」に関しての子どもたちの個人カルテ。

教師が子どもを把握するためのカルテ作り。一人一人の課題と成果。

5. 各学級での「話すこと聞くこと」についての国語科以外での取り組みを記録にした。